

Oracle Java SE 8 公式アップデート終了の対応について

【概要】

Oracle 社から提供されている Java SE 8 の公式アップデートは 2019 年 1 月末に終了しました。これにより HA8000 システム装置をご使用のお客様は、対応が必要となる場合があります。本コンテンツの内容をご確認いただき、対応をご検討ください。

【影響】

Oracle Java SE 8 の公式アップデート終了後は、セキュリティ脆弱性対策などのアップデートを無償でご利用できなくなります。

【対象製品】

表 1 に示すシステム装置において、表 2 に示す機能、アプリケーションをご使用の場合、前提ソフトウェアとしてリモート端末(管理 PC)に Oracle Java Runtime Environment [32bit] (以下、JRE)をインストール頂いています。

表 1. 対象システム装置

項	世代	モデル名	形名
1	HA8000xM モデル (RS440xM 除く)	RS220/RS210xM, xM1, xM2	GQ*22**M-*****, GQ*21**M-*****
2		TS20xM, xM1, xM2	GQ*T2**M-*****
3		RS110/TS10xM, xM1	GQ*11**M-*****, GQ*T1**M-*****
4	HA8000xN モデル (RS440xM 含む)	RS440xM, xN, xN1	GU*44**M-*****, GU*44**N-*****
5		RS220/RS210xN, xN1, xN2	GU*22**N-*****, GU*21**N-*****
6		TS20xN, xN2	GU*T2**N-*****
7		RS110/TS10xN, xN1	GU*11**N-*****, GU*T1**N-*****

表 2. 対象機能／対象アプリケーション

項	システム装置	分類	対象機能／アプリケーション
1	HA8000xM モデル (RS440xM 除く)	オプション機能	リモートコンソールオプション (GQS-VSS7BR20[EX] / VSS7BR30[EX])
2	HA8000xN モデル (RS440xM 含む)	標準機能	リモートマネジメント機能の Web コンソール
3		オプション機能	リモートコンソールオプション (GQS-VSS7BR40[EX])
4		アプリケーション	BMC Alert Register(*1)

(*1) : RS440xM では使用していません。(非サポート)

【対応方法】

ご使用の機能、アプリケーションに応じて、以下に示す対応方法の適用をご検討ください。

(1) HA8000xM モデル(RS440xM 除く)におけるリモートコンソールオプションの対応

Oracle JRE 8 [32bit]をご使用ください。Oracle JRE 8 [32bit]の入手には、Oracle 社との有償のサポート契約が必要となります。Oracle JRE 8 のサポート契約の詳細につきましては、Oracle 社ホームページをご覧ください。

(2) HA8000xN モデル(RS440xM 含む)における Web コンソール、リモートコンソールオプション、BMC Alert Register の対応

(a) もしくは(b)の対応をご検討ください。但し、BMC Alert Register は、(a)をご検討ください。

(a) Oracle JRE 8 [32bit]を使用する。

Oracle JRE 8 [32bit]の入手には、Oracle 社との有償のサポート契約が必要となります。

Oracle JRE 8 のサポート契約の詳細につきましては、Oracle 社ホームページをご覧ください。

(b) OpenJDK[Windows 64bit 版]もしくはAmazon Corretto[Windows 64bit 版]のいずれかを使用する。

BMC ファームウェアが OpenJDK[Windows 64bit 版]および Amazon Corretto[Windows 64bit 版]対応版である必要があります。(*2)

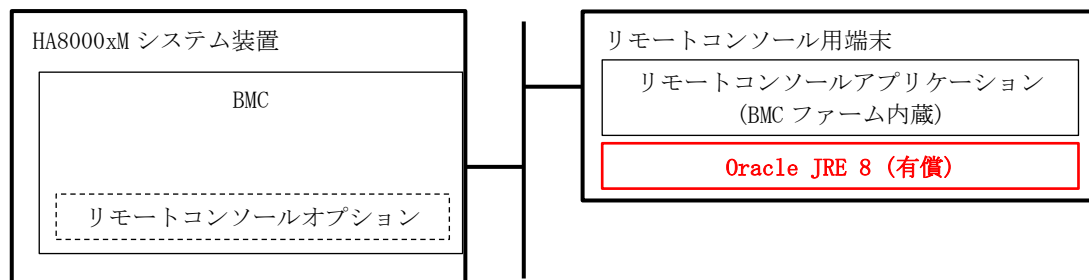
(*2) : OpenJDK[Windows 64bit 版]および Amazon Corretto[Windows 64bit 版]対応版の BMC ファームウェアは、下表のバージョンです。
 これよりも古いバージョンをご使用の場合には、BMC ファームウェアを最新版へ更新後に OpenJDK 環境もしくは Amazon Corretto 環境でご使用下さい。
 OpenJDK 11 環境では、Java がストールする事象が高頻度で発生するため、OpenJDK 11 は使用しないでください。

RS440xM, xN, N1 の BMC ファームウェア更新直後に Web コンソールへ再度ログインすると、「JAVA アプレットを起動しています…」のメッセージが表示され、かつ、「JAVA アプレットの起動に失敗しました。」というポップアップが表示される場合があります。この場合、ポップアップウィンドウもしくは Web ブラウザの [×] をクリックして、Web ブラウザの再起動を行ってください。改善されない場合は、Web ブラウザのキャッシュクリアを行ってください。

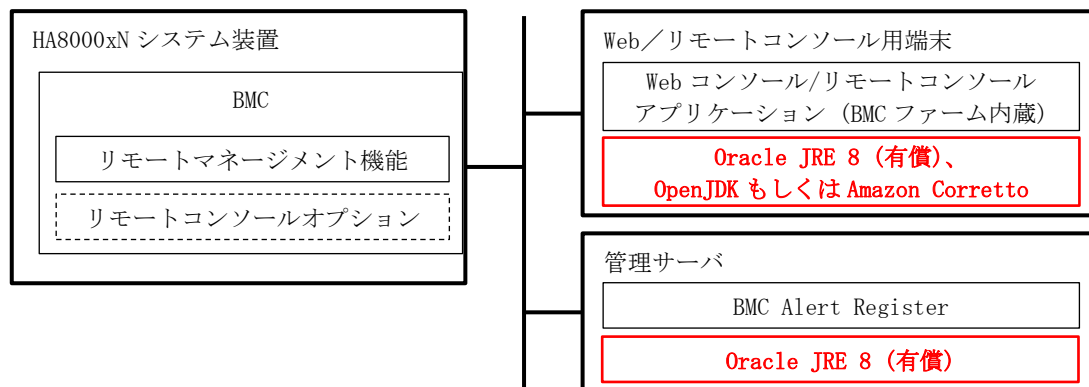
モデル名	形名	BMC ファームウェア
RS440xM	GU*44**M-*****	01. 51 以降
RS440xN	GU*440*N-*****	02. 30 以降
RS440xN1	GU*441*N-*****	03. 06 以降
RS220/RS210xN, xN1, xN2	GU*22**N-*****, GU*21**N-*****	02. 29 以降
TS20xN	GU*T20*N-*****	02. 26 以降
TS20xN2	GU*T22*N-*****	02. 26 以降
RS110/TS10xN	GU*110*N-*****, GU*T10*N-*****	02. 13 以降
RS110/TS10xN1	GU*111*N-*****, GU*T11*N-*****	02. 28 以降

【対応後のイメージ】

(1) HA8000xM モデル (RS440xM 除く) の対応



(2) HA8000xN モデル (RS440xM 含む) の対応



【OpenJDK もしくは Amazon Corretto のご使用にあたって】

動作確認済みの OpenJDK および Amazon Corretto は、次のバージョンです。

OpenJDK [Windows 64bit 版] : OpenJDK 12 (+IcedTea-Web 1.7.1)
Amazon Corretto [Windows 64bit 版] : Amazon Corretto 11.0.5 (+IcedTea-Web 1.8.3)

OpenJDK もしくは Amazon Corretto のインストール手順他については、以下をご参照ください。

1. OpenJDK もしくは Amazon Corretto のインストール

OpenJDK もしくは Amazon Corretto のご使用には、OpenJDK もしくは Amazon Corretto のいずれかと IcedTea-Web プラグインのインストールが必要です。以下を参照し、リモートコンソール用端末へ OpenJDK もしくは Amazon Corretto のいずれかと IcedTea-Web プラグインをインストールします。

(1) OpenJDK のインストール手順

- (a) `jdk.java.net` サイトより、Windows/x64 を選択して、OpenJDK をダウンロードしてください
ダウンロード先 : <http://jdk.java.net/>
- (b) ダウンロードした .zip ファイルを解凍してください
例 : 「jdk-12」フォルダが展開されます (OpenJDK 12 の場合)
- (c) 展開されたフォルダを以下のフォルダの配下にコピーしてください
C:\Program Files\Java\
「Java」フォルダが無い場合は作成してください
- (d) Windows の環境変数に OpenJDK のパス名を追加してください
変数名 1 : PATH
変数値 1 例 : C:\Program Files\Java\jdk-12\bin (OpenJDK 12 の場合)
変数名 2 : JAVA_HOME
変数値 2 例 : C:\Program Files\Java\jdk-12 (OpenJDK 12 の場合)
「JAVA_HOME」は IcedTea-Web プラグインで必要になります
- (e) Web/リモートコンソール用端末を再起動してください
- (f) Web/リモートコンソール用端末の OS が起動したら、コマンドプロンプトを起動し、以下を実行し、インストールした OpenJDK のバージョン情報が表示されることを確認してください
>java -version

OpenJDK の詳細は、OpenJDK のドキュメントをご参照ください。

なお、OpenJDK 12 は開発元のサポートが終了していますので、Amazon Corretto の使用を推奨します。
OpenJDK から Amazon Corretto に移行する場合は、上記で設定した (d) の環境変数 (OpenJDK のパス名) を削除してから Amazon Corretto をインストールしてください。

(2) Amazon Corretto のインストール手順

OpenJDK から Amazon Corretto に移行する場合は、OpenJDK インストール時に設定した (1) (d) の環境変数 (OpenJDK のパス名) を削除してから Amazon Corretto をインストールしてください。

- (a) Amazon Corretto のダウンロードサイトより、Windows x64 用のインストーラ (.msi) をダウンロードしてください
ダウンロード先 : <https://github.com/corretto/corretto-11/releases>
- (b) ダウンロードしたインストーラ (.msi) を実行してください
- (c) インストーラの指示に従いインストールしてください
- (d) Windows の環境変数には、自動的に以下の Amazon Corretto のパス名が追加されます
変数名 1 : PATH
変数値 1 例 : C:\Program Files\Amazon Corretto\jdk11.0.5_10\bin (Amazon Corretto 11.0.5 の場合)
変数名 2 : JAVA_HOME
変数値 2 例 : C:\Program Files\Amazon Corretto\jdk11.0.5_10 (Amazon Corretto 11.0.5 の場合)
「JAVA_HOME」は IcedTea-Web プラグインで必要になります
- (e) Web/リモートコンソール用端末を再起動してください

- (f) Web/リモートコンソール用端末の OS が起動したら、コマンドプロンプトを起動し、以下を実行し、インストールした Amazon Corretto のバージョン情報が表示されることを確認してください
- ```
>java -version
```

Amazon Corretto の詳細は、Amazon Corretto のドキュメントをご参照ください。

### (3) IcedTea-Web プラグインのインストール手順

- (a) IcedTea-Web プラグインのダウンロードサイトより IcedTea-Web プラグイン(Windows 版)をダウンロード下さい  
ダウンロード先： <https://github.com/AdoptOpenJDK/IcedTea-Web/releases>

- (b) ダウンロードした .msi ファイルを実行し、IcedTea-Web プラグインをインストールしてください

- (c) BMC Web コンソールの Java アプリケーションを実行した際に、.jnlp ファイルに関連付けるプログラムを要求された場合、IcedTea-Web プラグインの Java Web Start 起動コマンドのパス名を関連付けてください

Java Web Start 起動コマンドのパス名 例：

IcedTea-Web プラグイン 1.7.1 を .msi ファイルのデフォルト・フォルダへインストールした場合：

C:\Program Files\IcedTeaWeb\WebStart\bin\javaws.bat

IcedTea-Web プラグイン 1.8.3 を .msi ファイルのデフォルト・フォルダへインストールした場合：

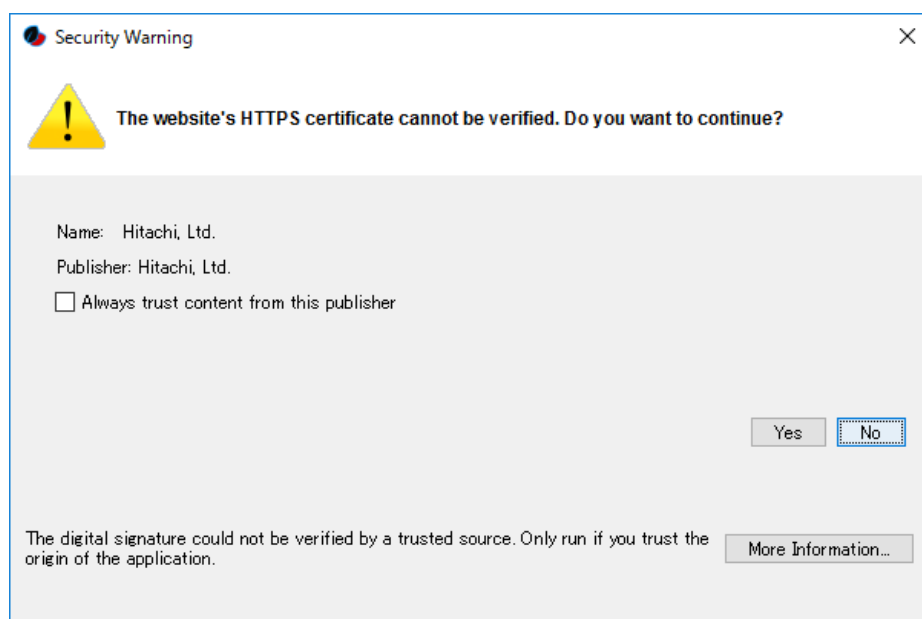
C:\Program Files\IcedTeaWeb\WebStart\bin\javaws.exe

IcedTea-Web プラグインの詳細は、IcedTea-Web プラグインのドキュメントをご参照ください。



## 2. OpenJDK 環境での「IPMI 情報」「リモート KVM」の起動時の注意事項

OpenJDK 環境で BMC Web コンソールの「IPMI 情報」や「リモート KVM/メディア」を起動するとき、起動中に次のようなセキュリティ警告画面が表示されることがあります。



セキュリティ警告画面の Yes ボタン/Run ボタンを押下し、本 Java アプリケーションの起動を進めてください。

セキュリティ警告画面のチェックボックスは、必要に応じてチェックしてください。

「IPMI 情報」「リモート KVM/メディア」の起動時にコマンドプロンプトが表示され、「IPMI 情報」「リモート KVM/メディア」を終了しても、そのコマンドプロンプトが残る場合があります。その場合はコマンドプロンプトも終了してください。

なお、OpenJDK11 で発生していた Java が高頻度でストールする事象は、OpenJDK12 以降で改善しておりますが、もし同様の事象が発生した場合には、起動時に表示されるコマンドプロンプトを強制終了させてから、再度 Java アプリケーションを起動してください。

### 【更新来歴】

2019 年 1 月 新規作成  
2019 年 3 月 OpenJDK 11 使用不可を追記  
2019 年 5 月 【OpenJDK のご使用にあたって】を追記  
2019 年 7 月 RS440xM, xN, N1 の情報を更新  
2020 年 2 月 Amazon Corretto 確認結果を追記

- ・本ページで記載している内容を予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。
- ・Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。
- ・Amazon と Corretto は、Amazon.com, Inc 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。